

平成29年度第1回 名張市地域活力創生会議 会議録【要約】

日時：平成29年6月28日（水）

午後3時～午後5時

場所：名張市役所2階 庁議室

1. 市長あいさつ

昨日6月定例会が終了。議題としては1億円の補正予算。このほとんどが国の地方創生交付金を財源とするものであり、主なものとしては健康づくりをテーマにしている。また、地方創生に関わる交付金については、これまで申請したものはほぼ全て採択いただいている。

2010年の国勢調査結果によると、全国約1,700の自治体の内、約70%の自治体は人口5万人以下で、残り約30%の人口5万人超の自治体に全国民の約80%が生活していた。

ところが2015年の国勢調査では、残り30%の自治体に85%の方が住んでいる結果となった。人口5万人超の30%の自治体へ国民が80%から85%へと5%も増えている。

大規模自治体は政令市と中核市、特例市で、全国に約6%しかないが、そこに約45%の人口が生活している。しかし、そこへ人口が集中しているかという決してそうではなく、静岡市のように、政令市でありながら人口が減ってきている自治体も出てきている。

私は3年前に、福祉自治体ユニットで「人口減少に立ち向かう自治体連合」を立ち上げた。約200の自治体に加盟いただいているが、このほとんどが人口5万人以下の自治体だった。

今年度からは、全国市長会の「まち・ひと・しごと創生対策特別委員会」の委員長を拝命しており、こういう小規模自治体をいかに特色ある自治体に磨いていくか、名張市も人口5万人以下ではないが微減が続いている。これからが正念場と思っており、他の地域の模範としてより磨きをかけ、注目される自治体にしていかなければならないと考えている。

2. 委員紹介

○事務局より、資料1「名張市地域活力創生会議 委員名簿」に基づき紹介

○資料2「名張市地域活力創生会議の設置要綱」について説明

【市長が議長となり会議を進行】

3. 地域活力の創生に向けた取組について

○事務局より、資料3「名張市 まち・ひと・しごと創生 総合戦略」の取組について説明

○意見交換

<議長>

昨年度の取組についてご意見等をいただきたい。

<委員>

例えば1億円の補正予算のほとんどが国の地方創生交付金を財源とするものであるとか、国の大臣等が名張へ視察に来られたというのは、人口減少対策等へ評価をいただいているという事だと思うが、どういった施策に注目いただいているのか。

<議長>

地域づくりに関して注目いただいている。ハーバード大学のイチロー・カワチ教授は、ソ

一シャルキャピタルの醸成無くしてはどんな事業もうまくいかないと申されているが、私もこれに感化され、平成14年に市長に就任し、平成15年から地域づくりの取組を重点的に行ってきた。これにより今では地域自らが自治体の色々な課題解決に向けて取組を行っている。「市長はお金も使わないのに、何故地域は課題の克服に向けた取組をしているのか」と聞かれるが「それは、市役所にお金がなかったからうまくいっているのです」と答えている。

市民の皆様は、「市役所へ言ってもあかん」、「市長に言ってもお金は出ない」、「我々で何とかするしかない」という思いで活動していただいている。住民自治の熟度が高まってくるに従い、地域資源、人的資源も含め、これらを有機的に結び付けたような土台が各地域ともにできてきて、地域毎にそれぞれ特色ある活動がどんどん行われてきている。

では、市役所は何をしているか。組織は劣化していくもので、その劣化を避けるがためのテコ入れに徹している。直接的ではなく、例えば健康づくり隊も10年以上経つと高齢化が進んでくるので、地域からご推薦いただいた方へ研修を行いリーダー等を養成し、地域へ送り出していくといったことをしている。

わが国の社会保障制度は、2025年から2040年に大きな山を迎える。2025年には3人に一人が65歳以上、5人に一人が75歳以上と見込まれており、一人暮らし世帯の高齢者は約700万人とも言われている。その時、我が国の医療、介護の提供体制はどうか、これを乗り越えるため、特に健康づくりに力を入れる必要がある。

例えば介護について、今でも介護職員が足りないが、3年後には8万人分が不足し、2025年には38万人から40万人の介護職員が不足する見込みである。

医療保険を払い介護保険を払い、制度も整っているがサービスは受けられないといった時代が来ては大変だということで、2014年、国は19の法律を改正し医療総合確保推進法を一括法としてスタートさせた。医療、介護の分野へ市民参加をいただく「ご当地医療」、「ご当地介護」という事になるが、それを具現化するツールが「地域包括ケアシステム」、「地域包括ケアネットワーク」である。地域資源をフルに活用し、体制をきっちり作っていくためにも、名張市は平成23年より取組を行っており、さらに磨きをかけていく。

一方で、人生90年から100年の時代を迎え、一生涯を健康で活力に満ちたそんな生活を送りたい。これは誰しもの願いである。また、住民満足度や幸福度などを図るうえでも、その第一条件には「健康」があり、健康は非常に重要である。

2025年から2040年の山を越えていく、また住民満足度、幸福度を高めていく、そのための健康づくりということで、これからより強化していくため、約1億円の補正予算で、健康づくりの拠点施設として陸上競技場のスタンドの更衣室等の改修を行うほか、検診率を高めたり、介護予防、疾病予防の教室などを行う。

「名張のまちづくりは完成が近いな」との声を学者の方々からいただくが、「もう一つ、空き家の活用をきちんとしていったら、ものすごく再生されていきますね」とも言われる。その部分を進めていきたいと考えており、今後、空き家の有効活用については、近畿大学工業高等専門学校の中田先生にお手伝いいただき、先生を中心に色々な計画を描いていきたいと考え、期待もしている。

<委員>

資料にある「人口減少」について、増えはしないが何とか歯止めがかかっているかなと感じた。15～29歳までの転入転出の差がやはり大きい。原因は「就職」「進学」にあると考えられる。労働人口の減少で人手不足の声はあるものの非正規の募集が多く、正規社員の募集は少ない。このあたりについて、行政が企業に働きかけるなどできれば、そして、地元へ

の就職ができれば30歳以上にある程度の歯止めがかかるのでは。

<議長>

まさに、15～29歳は進学・就職で都市部へ出て行く。しかし、戻ってくれたりもする。30代は転出超過だが転出数は少なく40代では若干の転入超過の傾向もみられる。0～14歳においても転出より転入の方が多い。名張で子育て、そして教育をという方がおられることから、この部分を強化していかなければならないと思っている。

子育てに関しては、24時間365日の小児2次救急医療センターを立ち上げ、ドクター6人体制に加えて応援の小児ドクターにも来てもらっており、これがセーフティーネットとしての安心感をもたらしている。もう一つは、「名張版ネウボラ」。子育て支援の一つであり、先駆的取組として全国からも注目されている。今ではこの取組が全国的にも展開されており、「名張は子育てのまち」といった印象で色々な所で紹介されている。

これからは、教育にもっと力を入れていくとしており、一つは「小中一貫教育」。これはモデル的に進めている。そして、5歳児を義務教育化することについても予算が少なくモデル的にしかできないところだが、文部科学省からも是非進めて欲しいと言われている。

5歳児の中には、保育園・幼稚園に行かれてない方もいるが、全ての5歳児が、保育園・幼稚園へ通い、小学校との協力により生活習慣をきっちり身に付けていただく。そして小学校1年生に進学すればスムーズに授業ができるようにしたい。現状は、小学校入学後何カ月かの授業は幼稚園の延長のようなどころもあり、スタートが大切である。

今、委員さんには地域づくりを頑張っていていただき、百合が丘小学校と地域が連携して地域全体で子供たちを育成するといった取組が文部科学大臣賞を受けるなど、コミュニティスクールがものすごく進んでいる。このような「地域の子どもは地域で育てよう」、「主体的に学校と連携してやっぺいこう」といった素晴らしい取組が全市的に広がってくればよいと考えている。コミュニティスクールと放課後子ども教室の一体的な取組についてもモデル的に進めている。

また、今、教職員の過重労働が言われているが、これらの取組によって少しでも解消されればよい。百合が丘小学校では、地域の方が小学校に入り、小テストなどの採点などもしてくれる。通常の学校では一度回答用紙を回収し、職員室で処理して次の時間に配って、といった行程が必要だが、そこでは地域の方がその場で採点をし、先生が採点結果を元に傾向を見て指導がすぐにできて、先生の省力化にもつながっている。

名張市で子育て、そして教育を受けさせたいといった時、高等学校の進学に関しても色々な方向が選択できる。関西方面の高校や東方面にも通学ができる。

これまで伊賀市、そして奈良県の宇陀市、御杖村、曾爾村、山添村、このあたりからも多く転入いただいていたが、これもそろそろ頭打ちになるだろうとも思っている。そこで、さらに広いエリアに名張市の魅力を発信し、来ていただきたいと思っている。

<委員>

例えば教育の面について、一つ一つはすごく素晴らしい取組がなされていると思う。また、小学校・中学校は名張市で補える。高校になると交通の便も良いので通学できるが、その後は絶対に出て行く。そこが課題。一旦、市外に出て住民票を移しそこでの定住が始まってしまふ。そこからどのように名張へ呼び戻すか。ネウボラの取組は子育てのまちとして母になる人には大切だが、その子どもが育つとまた出て行く。これを食い止めるためにも、地場産の創造が必要。工業施設の誘致は今後増やす場所がないとのことだが、外からの起業誘致は結局、転勤等による転入転出を繰り返すことになる。地場で若者達が産業を興し、そこでこ

の土地の食・環境・人の良さを思ってもらうことで、いつまでも住みたいという魅力が生まれる。

そのために、例えば空き家活用があると思うが、これもただ住むだけではなく、また資料のクラインガルテンなど小さいながらも農作物を育てるといったことも良いが、「カフェ」、「売り場」、「お菓子屋」など個々の小さい商店も集まれば、許容度の広い産業を作り上げることができるのではないか。その1点1点は素晴らしいが、点を線で結び、後々のことも考えていかないと課題解決にはならないかと思う。

<議長>

数字にも表れているとおり一番出て行くのが15歳～29歳。進学就職で都市部に流れ、また帰って来ていただく。実は就職で企業の寮に入るなどで、はじめは伊賀へ転出されている方もいる。伊賀市は無料の自動車道もあり、企業も多くある。その後、結婚をするなどで名張に帰ってくる。国道368号線が4車線化すればもっと名張に住みたいと言った声もある。これは一つの名張の強みとも思う。なぜ名張へ来るのか、仕事と住まいと子育てが揃う必要があるが名張市は仕事の部分は弱く、多く選択できるものがない。そこで「起業する人に丸腰で来い」といった、企業・創業をされる方への支援の取組を進めており、カフェ等を創業していただく方も出てきている。あれもこれもはできないが、近畿大学工業高等専門学校とも民産学官連携協議会を立ち上げ支援をしていくこととしている。職については非常に重要になるだろうと考えており、今仕掛けをしているところである。

また、7月1日からは移住コンシェルジュを採用し都市部から名張市へ若い人に来てもらうため、取組を進めていきたい。

<事務局>

(転入いただき起業いただいた方の事例として、別添の広報1月1日号を紹介)

<議長>

井上さんは、元々は農業をされない人だったが、名張市に移住して来て農福連携の作業所を立ち上げるなどの取組をしていただいている。また、大石さんも都市部から来ていただいて洋菓子店を営んでいただいている。名張市というのは、農産品も地産地消ができていくまちでもあり、消費をする力のあるまちでもある。杉岡さんにはイーナバリ株式会社を立ち上げ、頑張ってもらっている。

<委員>

子育て世代の女性の活躍する場について、名張での職といえば工業か中小企業、大きい小さいかといった選択になり、実際に大企業への就職希望は多いが中小企業への希望は弱い。そこで、求職者が中小企業へ向く何か方法を作ったり、もしくは、中小企業の必要としている技術を求職者が習得のできる機会があると、もっと雇用と人とのマッチングができるのではないかと思う。

<議長>

シングルマザーの就職支援、パソコン講習はあるが、一般的な支援はなく、今後そのような希望があれば、近畿大学工業高等専門学校の協力をいただくなどして、それぞれの分野に進んでいけるような講座を持っていければ良いと思う。

<委員>

実際には事務職の希望は多いのに、事務の仕事は少ない。そこもミスマッチがおきている。

<事務局>

平成28年度で実践型雇用創造事業を終え、平成29年度からは新雇用創出事業として、

名張市産業チャレンジ支援協議会を立ち上げ、女性の就労機会を設けるための取組を進めており、企業とのマッチングなどについても進めていければと思うところであり、必要に応じた助言をいただきたい。

<委員>

空き家プロジェクト、商業の斡旋などの取組はあるが大型の商業施設を呼び込むなどではできないか、若者を留める効果もあるのではないかなと思う。そのような施設があれば、その周りに個々の商店などがあることの意義があるのではと思う。

<議長>

商業施設については飽和状態になっている部分もあるのではないかなと思うが、夏見ではマックスバリュが建設中であり、蔵持ではスポーツジム等の造成をしている。

土日には各地から本市へも来ていただいているところで、飲食店などは閉店しても、またすぐに新しい飲食店ができたりといったところもある。

<委員>

大きな流れを作るという点では、大型のショッピングモールを中心にまちづくりが起きているといった印象もある。そういった発展もあるのかなと思う。実際に私が以前住んでいた越谷でも大型商業施設の進出がきっかけで活性化した。

<議長>

大型商業施設になると、都市部とは商業規模も違う。またどこまでを人口エリアとしているのかといった点もあるだろう。遠方から来ていただくといえば、名張市の舟券売り場「ミニポートピア名張」では、市外から沢山の方に来ていただいております、毎日700万円の収入があり、名張市は事業者から年間約2,000万円（売上の1%）をいただいている。

<事務局>

平成19年の市民意識調査では、1番目が映画館、2番目が温浴施設、次いで大型ショッピングセンターの希望が多かった。また、希央台の開発の際に行った調査では、大型ショッピングセンターの誘致には50万人の商圏が必要であったが、当時の名張市は13万足らずの商圏といわれており、断念した経緯もある。

<委員>

交通アクセスの悪いところが気になる。東西に一本、南北も名張街道（国道368号線）しかない、これを何とかしないといけないのかもしれない。

<議長>

そういった形で活性化していくまちというよりは、名張は「暮らしのまち」として表号し、総合計画にも掲げて取り組んできている。「名張で暮らしたい」、「意外と便利が良い」、「安心・安全のまち」といった、そういったまちにしたいとの思いがある。

<委員>

移住者として、6年前に大阪から来た。新規就農者となり現在社員は20名、その中には大阪から越してきた友人もいる。名張は大変暮らしやすいと感じている。他の地域だと「観光のまち」など特色があるものだが、名張は特色のないところがいいところだと思う。中途半端だが、言い方を変えればハイブリッドで、イナカ暮らしも、トカイ暮らしも満喫でき、派手さもないが住めばわかる良さを持っている。今、知り合っている人達も、古民家でカフェをするとか、私も古民家民泊の事業展開をしていく。地域の中でも古民家空き家なども沢山出てきて、移住しIT起業やシェアハウスなどの小商売をする人も増えている。

そこで、名張での小さなビジネスを色々集めて面白いマップを作れば、全国から人が集ま

り、人が集まればお金を落としてもらえる。ローカルなところからの全国発信で、大阪からも名古屋からも近いので、色んなサミット等もできるんじゃないかと思う。

今、イーナバリ株式会社とは密に仕事をしており、小松菜ふりかけなども考えているが、農業の6次化のために認定を受けても加工場を作るには何千万円もかかる。そのような折、名張市が6次産業の加工を行う会社を立ち上げてくれたことで、小さい会社であっても加工食品ができる環境をいただいた。農家でも企業に頼らなくても小商売を始めて、面白いことをはじめれば、今はネット販売等色んな方法が考えられる。また、女子力、という点において、私は農業女子プロジェクトに入っており、注目をいただいております全国からも見学がくる。やり方によっては地道でも面白いことをする人達が増えると、目立った大きな動きはなくてもお金の入る仕組みができる気がする。名張の暖かいところや底力、バラバラ感が良い。

<議長>

井上さんは色々な方向へ手広くされ、身体が持つのかと心配するほどバイタリティ溢れる女性。

<委員>

大きな商業施設より小さな力の集合体が名張の特色で、仕事が暮らし、暮らしが仕事といった方が集まり育っていけばいいかと思う。大きな商業施設が市外に多くある中、名張市が対抗したとしても土地の広さをみても限られており、地方創生の力で何ができるかと考えると、そういう人たちの後押しかと思う。

外国人誘客するために、色々されていると思うが、標識が英語じゃないところも多い。個々には英語表記、中国語表記があっても、まちとしてはできていない。まち全体に英語の案内が増え、まちの小さな拠点も案内されているといったことができると、名張市として特色として「観光及び暮らしイコール仕事」という風にできるんじゃないかと思う。

<議長>

これから観光DMOもしていくが、多言語表示看板についても整備していく必要がある。3か国語くらいは欲しい。市内のホテルや民宿にも外国人が多く、10日なり20日と滞在している。名張の何が魅力かという、鉄道があること。ここを拠点に動いている。長期滞在いただくのは良いと思う。一時だけ来てすぐに去っていくような観光はあまり好まない。

<委員>

近畿日本鉄道は急行でも、日本語、中国語、韓国語を話す。また、難波駅にも地下鉄に通訳がいる。

<委員>

外国人観光客について、大阪はかなりの飽和状態で、この勢いが止まりそうにない。去年は約2,400万人、今年が約2,700万人、この方向だと多少の成長率等は変るものの2020年に外国人4,000万人のロードマップは変わらない。そういった裏では、民宿、ガイドや外国語などの問題が言われている。全体の方向性は国も進めている中、近隣でも取組をしているところがあり、奈良県、また田辺市でも「田辺市熊野ツーリズムビューロー」などの取組もある。全体的なムードはよい。では名張市はどうするか。委員の今日の話にあった名張の強み、そして市長の考える名張の強み、それら全てを1つにまとめれば非常にいい感じがする。今から新たに工場を誘致することや大型施設を誘致するには、かなり戦略的に巨額な費用も必要となり、実現可能性からいうと少し低い。優先順位を付けるとすれば名張の強みとして「福祉」は間違いない。昨年11月の教福連携名張サミット2016での資料にもあった同志社大学の永田先生が書かれていた内容など、勉強させてもらった。たまた

ま、3月に韓国と台湾の福祉関連の方と出会う機会があり、いくつか取組を紹介したところ、かなりの興味を示しておられた。

国内からはかなりの見学・視察があると聞いているが、同じような問題を色々な国で抱えている。制度的な差はあっても超高齢化社会の問題そのものは変わらない。

そのような中での、「暮らし」「福祉」を1つのテクニカルビジターツアーとして組んで、発信していけば、これはかなりの強みと考える。また、空き家対策や農業は日本も韓国も同じ問題を抱えており、どうするかという時に、各市、町ともに答えを持っていない。そこで、現在委員の進める農福連携の施設の取組に対し、少し支援や整理するなどして、完全なモデルを作り上げるなど、モデル化の必要性があるのではと思う。そういったところに興味がある人や、大きなものよりも小さなものやっていくなどの事例を示し、サミットなどの形で実際の事例として発信をするとかなりインパクトがある。

すぐできること、少し時間をかけながらしていくこと、色々分けながら進められたい。

先程、産業チャレンジ支援協議会の話があったが、では産業といったら何をするかと言った時に、あまり大きなことを考える必要はない。名張で強みがあることであれば、農福連携、教福連携、福祉の取組などを紹介・発信することから始め、知名度がアップすれば関心を持ってもらえる、といった好循環が創られる。上本町からもすぐの距離である。

去年約2,400万人の外国人誘客の中身を見れば、その約68%が中国・韓国・台湾であり、これらの国で、名張のこの取組をどれだけ知られているかと言えば、日本国内で知られているよりかなり低い認知度である。そこへ力を入れていくと、逆に日本国内もさながら海外からも注目と知名度が上がるのではないかと思う。せっかくDMOを立ち上げ、外国人の職員もいるようなので、生かしていけばかなり磨き上げができるのではないかと思う。

<議長>

名張は地域づくりがきちっと叶っているので、ソーシャルキャピタルの熟度が高いと言われており、それをもって色々な発信をしていきたいと思う。特に高齢者に関わる問題はかなり進んでいる。平成9年に介護保険ができ平成12年にスタートし、それまで介護は子どもの責任であったが以降社会化された。その平成9年の県会議員時代からこれに関わらせてもらっていた。

そして今、国の子育てのプロジェクトに入る予定をしているところであるが、子育てという点において韓国は進んでいると思っている。韓国では今、保育等にお金が必要で、少子化も歯止めがかかりつつある。子育てという面においては学んでいかなければならないところもあると考えている。日本の社会保障は人生の後半に手厚いが、なんとしてもこの子育ての社会化を進める必要があると考えており、政府の有識者会議へのたたき台となる資料作りを色々な外国の事情も勉強しながら提案していきたい。

教福連携についても文部科学省と厚生労働省が壁を低くし連携して行いこれがトレンドにもなっていく。ですので、こういうことをもっと発信していくことで外国からも招き入れることができるのかなど。難しいのは「忍者」をどうするか。名張は百地の直系がいるが生活者である。これを観光化されるのは困るという声もあり、それらが非常に難しいと思っている。

<委員>

日本人はそれほど忍者にインパクトはないだろうが、外国人にはインパクトはあると思う。あちこちで「忍者」と聞くと、飛んだり跳ねたりのパフォーマンスはあるが、多くの外国人へインタビューをすると、「本当の忍者はなにか」ということをよく言われる。こういった質

問に、「忍者は見えないものだよ」と。生活者であり普段の仕事に徹しながら諜報活動、情報収集をするもので、「俺は忍者だ」というものではないかなと。特にオーストラリア、カナダ、アメリカ西海岸、ヨーロッパなどは忍者に熱狂的なところがある。逆にアジアではそれほどでもない、台湾ではむしろ派手さがなくダメな印象。そのように各国々が考える見方というものもある。100%リアル忍者としてしまうと本当に分からなくなるが、本当の忍者を表現すればこれはかなり可能性が出て来る。しかも百地の直系がおられるというのは、素晴らしい。決してそこに行かなくても良い。簡単に会ったり、見れたり、接したりできてしまうと価値がなくなる。昔ヨン様は1年に1回しか出なかったように、周辺でそういうものをうまくこしらえていけば可能性もあるし、赤目の環境も非常に素晴らしい。ブラッシュアップして取組次第ではかなりインパクトがあるものになると思う。

忍者のからくりには興味は持つが、後のインパクトはない。また、何をきっかけに来るのは海外のサイトを見ればわかる。フランス人、アメリカ人、オーストラリア人などそれぞれどういったサイトから入るのかを見れば、向こうのサイトではそういったところはない。

<委員>

忍者のパフォーマンスは伊賀というスタンスがあるなら、「名張」は「隠れる」とも書く、名張ではリアルな隠れスピリッツの忍者体験を。

<委員>

名張市が「食べてだあこ名張のお菓子おもてなし条例」の制定もあり、6月15日には、お菓子販売を行い名張の魅力、郷土菓子のアピールができた。5月の伊勢の菓子博でもPRしたが、こういう取組も地方創生の一つの姿かと思う。私はお菓子で名張を盛り上げたい。イーナバリ株式会社とも協力し、市外、県外にアピールして、名張の良さをもっとブラッシュアップさせて商品開発も併せてお菓子の力で盛り上げたい。

<議長>

毎月15日は「お菓子の日」、また、毎月1日は「伊賀の名酒で乾杯の日」と、それぞれイベントをどんどんやっていただければと思う。名張の既成市街地部は伊勢大和の往還の宿場町として街並みが整ってきたところで、そこでは多分、名張のお菓子で旅人をおもてなししていたのだろうという想定のもとで、女性の議員だけで作られ条例が制定されたところであり、ぜひ、今後も色々考えていただきたい。

<委員>

この平成28年度に実施した施策はすぐに結果が出るわけでもなく、検証等もされてると思うが、これら取組を通じて、どうだったか、もう少し足りなかった、方向性が違ったなどなどあれば知りたい。

<事務局>

この創生会議ではそういった成果に対してのご意見をいただく場としており、ここでのご意見も踏まえて、また一つ一つの取組に指標を掲げており、指標なども分析しながら見ていきたい。主なものとしては、資料13ページで「健康な暮らしを送っていると感じている市民の割合」の指標が目標に対して低くなっている。平成29年度は、こうした結果を踏まえ地方創生の交付金も活用するなどし、さらに健康づくりに取り組んでいくこととしている。また色々な意見を踏まえ次の取組に繋げたい。

<委員>

小中一貫教育と5歳児の義務教育化について少し不安がある。5歳児がどれほどの成長発

達があるかは、色々な取組で検証いただいているだろうが、今は6歳までを幼児教育として取り組んでいる。近年の子育ての難しさ、社会的にも核家族化等の影響もあり、子どもへの愛情の持ち方など詳しい育て方が伝承されにくい。女性が社会に進出する中、保育園は発展してきたが、沢山の待機児童を抱える事にもなった。そこで取組も沢山いただき、今年沢山の小規模保育園も開設され、待機児童も随分と解消されたが、次の3歳児の受け皿はどうするかといったところも不安。

また、5歳児の義務教育については、授業を受け入れる子供にするのか、人として育てていくのか。そこを検証いただきたい。長い期間の中で、子どもが見て、発見して、感動してという心の育ちを大事にしていきたい。1+1=2だけでなく、立派な社会人にするため創造性豊かな子どもにするのが幼児教育と考える。日々の生活の中で経験を豊かにしていくことを幼児教育では大事にしたい。4歳までにそれをしなければならなくなると少し不安がある。5歳児の伸びは大きい、友達との関わりなどが確立していく年代であり、社会性がぐっと伸びていく時でもある。

<議長>

5歳児の義務教育化では、全ての5歳児には保育所・幼稚園に通っていただき、1週間に1度は小学校の先生の協力で、座って話を聞くといった習慣を身に付けさせたい。

そして、小学校1年生になったら小学校1年生の授業をスタートできる体制というのが私の理想であり、保育所の中でも、それらができている保育園、できていない保育園もあり、それらのムラを無くしたい。

<委員>

私は地域づくりの目線で、どういう地域になるべきか、という事を頭において活動していかなければならないと考えている。地域のやることはそれ自身が「しんどい、いやだな」といった印象を持つ方もいるが、将来この地域にどうなって欲しいか、という事を念頭に説明すれば協力者も多くなる。

また、多くの人に地域に住んでもらうには、「まずその地域の学校はどうか」、といったことを考え、環境の面においても「いつもきれいなのは、地域住民がしているのか、良い地域だ」といったことになると、この地域に入ってもらえる可能性も高くなる。さらに地域の価値も上がり、みんなの活動が地域の価値を上げる。こういったことを思いながらそれぞれのことを行っている。雇用やコミュニティビジネスのことなど色々、この地域に大切なことという事を考えている。教育については今注目もいただいている。発信を続け、同じようなことができるところが増えてくれば、そのような社会になって欲しいという思いで取り組んでいる。

<議長>

素晴らしい地域の取組をされており、これからもお願いしたい。

<委員>

農業について、今非常に問題になっているのは山間部農地の耕作放棄、作らずにしているところが非常に多くなっている。作らないことは、0ではなく、マイナスとなる。景観の問題もあり、地域に残された人の協力でかろうじて維持している、一人でも農業者を増やしてほしい。ある程度の規模と多品種で行えば、採算は取れないと思うため、また鳥獣害も含めて、当然伊賀南部農協として支援したいと思うが行政にも協力して欲しい。

<議長>

伊賀南部農協さんにも是非バックアップよろしくお願いしたい。地産地消を推進していく

ということで、名張の湯の横へ「とれたて名張交流館」をオープンし、地元の農産物の販売などをおこなっているが、40坪の売り場面積の中、年間1億1千万円の売り上げがある。顔の見える農業というか、そういうところに消費者が惹かれている。イオンには「名張物産市場」が開設され、ここも売上が伸びている。これだけ消費できるまちなのでやり方次第と思っている。

<委員>

是非とも、外国人が見学できるモデルの選定と仕組みづくりを徐々にでもしてほしい。せっかくこれまで功績を上げてきた。お菓子の取組、教福連携、農福連携、など外国人誘客に向け見える化をすれば間違えなく来てもらえると思う。

<委員>

安全・安心に関して、千葉県で子供の事件があり、子どもを支援する者からすればすごくショックであった。現在1・2年生の下校時の見守りについては、高齢者もついて歩いているが、子どもは走ったり広がったりするので、高齢者一人では安全な見守りは難しい。その上、事故でも起きれば感謝されるどころか、責任を問われることになる。

そこで、今やろうとしているのが「8・3運動」。8時、3時には地域全体で、犬の散歩、表に出る、子どもを迎え、送り出す。といったことをおこない見守りのできる地域にしたいと考えている。最近、歩く人も増えてきた。そういったところを名張市全体としてもしたい、働きかけてほしい。全国に先駆けて名張市で是非して欲しい。

<議長>

これは地域全体で子供を見守り育てていこうというコミュニティスクールの基本ともなる。さらに、健康づくりにも繋がるため、広報でもPRし進めていきたい。

<議長>

今日は貴重な意見をいただきありがとうございます。これからの事業に反映してまいりたいと考えております。

4. その他

特になし

以上